

## ●夏休みイベント報告▶▶その1

### ～親子グラブ製作教室とバット製作実演～ 事務局長 廣瀬 信一

毎年恒例となりました、夏休みのイベントの中から、今年もミズノ株式会社様のご協力をいただき、8月18日(木)「親子グラブ製作教室」、そして19日(金)、20日(土)と2日間に渡って開催した「バット製作実演」について報告を兼ねて紹介いたします。

「親子グラブ製作教室」は小学生のお子さんとお父さん、お母さんが力を併せて世界で一つのグラブを作るという大変夢のあるイベントです。過去2年間は硬式ボールの製作でしたが、実際に使用できる軟式グラブ製作の人気は高く3年振りの開催となりました。当日は、多数の応募者の中から抽選で12組24名の参加をいただきました。時間にして約3時間弱、ミズノのスタッフのご指導のもとグラブ製作の最後の工程である「ひも通し」を体験していただきました。適度な難しさがあったことで、皆さん完成したグラブを手に達成感と満足感に浸っていました。また、自由研究向けのメモや撮影をしている親子も多く見られました。



完成した“自分のグラブ”を手に記念撮影

翌日行われたバット製作実演は、本年4月に続きイチロー選手や松井 秀喜選手らのバットを手がけた「久保田 五十一(くぼた・いそかず)」名人に再度お越しいただきました。名人は昭和18(1943)年生まれで、御年68歳。既に、50年以上もバット製作の仕事に携わり、平成15(2003)年には厚生労働省の「現代の名工」に認定され、同17(2005)年には黄綬褒章を受章されました。現在も、健康維持のため毎朝5時半に起床され、腹筋と背筋を各200回、その後愛犬と山歩きをするのを日課とされています。実演は、1日3回のスケジュールで行われましたが、各回とも立ち見が出るほどで、特に初日はTV番組の取材・撮影が急遽入るなど大賑わいでした。また、自分は硬球を打ったことがないと言いながらも、プロ野球のスーパースター達のバット製作を通して知り得たバッティングに関するお話やアオダモ、メープル、ホワイト・アッシュと言ったバットの原料についてなど、興味深いお話を聞くことができました。質問コーナーでは、名人は様々なエピソードを交え、小・中学生にもとても分かり易く対応され、さらに終了後は展示してあるイチロー選手や松井選手と同タイプのバットを触ったり、名人との記念撮影をしたりと終始和やかな雰囲気に包まれました。



久保田 五十一名人のバット製作実演

延べ3日間に渡った、夏休みのイベントを大盛況で終えることができました。特に、全面的にご協力いただきましたミズノ株式会社様には、この場を借りて厚くお礼申し上げます。



●夏休みイベント報告▶▶その2

～野球で自由研究！～

7月21日(木)から9月4日(日)まで、当館図書室・イベントホールにおいて、野球をテーマに自由研究を行う小・中学生をサポートする「野球で自由研究！」を行いました。

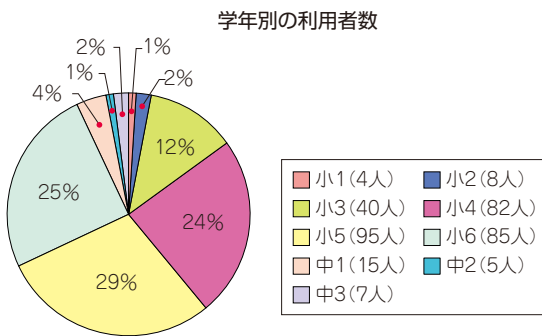
期間中図書室には3,400人余りの来館者がありました。このうち、自由研究を行なった小・中学生は341人で、昨年に比べ43人増加しました。

学年別にみると小学校4年生から6年生がそれぞれ80人を超え、3学年の合計は262人となり全体の77%を占めました。(グラフ参照)

特に小学校5年生が95人、6年生は85人とそれぞれ昨年より21人と24人増え、自由研究を行う学年の中心が、高学年へと変化してきました。



※テーマが複数の場合あり



学年別自由研究のテーマ

	歴史	用具	野球の技術 (バッティング、変化球等)	野球場	その他
小学校1年	1	1	0	0	2
小学校2年	4	4	0	0	2
小学校3年	13	16	4	2	8
小学校4年	29	32	4	7	19
小学校5年	36	35	8	4	20
小学校6年	31	34	5	2	17
中学校1年	7	6	2	1	2
中学校2年	3	4	0	0	1
中学校3年	2	3	1	0	1
合計	126	135	24	16	72

テーマ別にみると、野球の歴史は126人、野球用具は135人とそれぞれ全体の30%以上を占めました。(表参照)

中でも野球用具を選んだ子どもの60%近くが統一球を取り上げ、統一球の原材料を実際に触ったり、デジタルカメラで撮影したり、ボール製造工程などの資料を見ながら自由研究をまとめていました。

自由研究のテーマでは他に、野球場についてや野球がうまくなる方法、変化球の投げ方・種類といった野球の技術について調べる子どもが目立ちました。

また、8月26日(金)、27日(土)には、殿堂ホールで14:00～と15:00～の2回“ミニミニ実験コーナー”を行いました。実験の内容は①変化球のみみつ②統一球のみみつ③イチロー選手のバットをはかってみよう！の3つでした。

来年も、野球により一層興味を持ってもらうよう、さらに充実させた「野球で自由研究！」を行いたいと思います。



ミニミニ実験コーナーの様子

2011年度の維持会員を募集しています!

財団法人野球体育博物館は、昭和34年に野球専門の博物館として開館して以来、野球や体育に関する資料を収集・保管・公開してきました。バット等の実物・写真資料は約3万点、図書・雑誌は約5万冊を収蔵しており、展示や閲覧という形で多くの方々に利用していただいております。

また、年1回競技者表彰委員会と特別表彰委員会にて野球界の功労者を選出し、「野球殿堂入り」として表彰しています。

維持会員とは、このような博物館の事業にご賛同いただいた方々に、維持会費をお願いし、博物館の運営をご支援いただくものです。

◆1. 会員特典

- (1)当博物館発行「ニュースレター」(季刊)を送付します。
- (2)無料で博物館に入館できる優待証を発行します。
- (3)アメリカの野球博物館(クーパースタウンにある)にも無料で入館できます。
- (4)会員以外の方でも利用できる博物館招待券を差し上げます。
- (5)イベント情報などを優先的にご案内します。
- (6)博物館で販売している商品が10%引きになります。

\*新個人会員には上記の特典のほか、『野球殿堂 1959-2009』を進呈します。(ジュニア会員を除く)

\*新ジュニア会員には上記の特典のほか、「野球体育博物館 オリジナルピンバッジ」を差し上げます。

◆2. 会員の種類と会費 年会費(4月～翌年3月迄)

法人会員	1口	100,000円
個人会員	1口	10,000円
ジュニア会員(小・中学生)		2,000円

\*ご入会月により、個人会員の初年度年会費が割引になります。

ご入会月	4月～9月	10月～12月	1月～3月
維持会費(個人会員)	10,000円	5,000円	2,000円

◆3. ご入会の方法

- ①館内にあります「維持会員募集のご案内」の“入会申込書”に、必要事項をご記入のうえ、係りにお渡しいただくかお送りください。  
「維持会員募集のご案内」は郵送もいたしますので、ご希望の方は博物館までご連絡ください。
- ②“入会申込書”が届きしだい“維持会費のご請求書”をお送りしますので、維持会費をお振込みください。

お問い合わせ 博物館 業務部  
皆様のご協力、よろしくお願い申し上げます。



## 殿堂入りの人々を語る (33)

### 父の思い出

戸川 淑子 (田中 勝雄氏 長女)



1985年野球殿堂入り  
田中 勝雄氏レリーフ

大阪で生まれ育った父は結婚後、芦屋に世帯をかまえました。私は、妹と二人だけの姉妹です。普段の立ち居振る舞いに口やかましい母よりも、どんないたづらをして怒らなかった父を私は大好きでした。とにかく子煩悩な父でした。お酒も煙草もたしなまなかった父にとっては、娘達や家族との団欒が一番愉しかったのでしょう。それを物語るように随分沢山の家族写真を撮っております。その、自分で撮った写真を暗室代わりの土蔵の中で現像し、焼き付けまでするのを妹と二人、父の傍<sup>かたわ</sup>らで、どんな写真に出来上がるか見守っていたのは嬉しい思い出です。父は、よく唄を歌っておりました。本当によい声でした。フォスターの曲を英語で歌い、東京六大学の校歌や応援歌、たまには賛美歌も混じり、当時流行っていた藤原 義江のレコードに併せて歌う事もありました。又、週に1回は謡曲のお師匠さんに来ていただいて謡<sup>うたい</sup>と仕舞<sup>しまい</sup>も習っておりました。その時の袴姿も素敵でしたし、時には母の鼓に合わせて尺八を吹いていることもありました。

父の部屋には、重いバットとボールが飾られていて父が学生時代野球をしていたことは何となく知っておりましたが、父の口から聞いたことはありません。そんなある日、飛田 穂洲氏が芦屋の家に来られました。そして私達に飛田氏が書かれた御本を下さいました。その本に父のことが書かれていて、初めて父の学生時代のことを知りました。まもなく父は請われて早稲田大学野球部監督として上京することになりました。当時は東京六大学野球全盛の時代で、初めて見た早慶戦の応援の華やかさには驚いたものです。又、早稲田大学野球選手のファンの方達から、激励や、選手とお付き合いたいとのご依頼など、女学校に入った頃の私には大いに興味のあることでした。監督在任中、二度の優勝を果たした父のお陰で、東京生活は楽しいものでした。「石の上にも三年」の諺通り父は、きっちり三年で監督生活を終え芦屋に戻りました。

やがて第二次大戦に入りましたがその戦争で、嘗ての選手の方々が戦死されたり戦場で苦勞されたことに、父は哀惜と感謝の気持ちを忘れることはありませんでした。我が家も防空壕作りに庭をつぶし、畑にして野菜を作るなど父は率先してやっておりました。空襲も経験しました。我が家は、近くに落ちた爆弾の爆風で、大屋根を飛ばされ青天井の見える状態になりましたが、それを修復する資材も財力も乏しく、野球しか知らない父がどんなに心身ともに苦勞したか、一家の長として家族をしあわせにしてやるのが出来ない悲しみに打ちひしがれていた父の姿は、娘の目にも痛々しくうつりました。

終戦になって間もなく私は結婚し家を出ました。やがて孫が生まれましたが、父は孫達にも目が無く可愛がってくれました。私の娘が大学に早稲田を選んだことで父はもう大喜びしたそうです。やがて、あの阪神淡路大震災が起こり、家はその数年前に建て替えたばかりで無事だったものの、ライフラインがとぎれ、面倒を見てくれていた妹夫婦の計らいで大阪のホテルに避難しましたがそこで体調を崩し、「自分は百才まで生きて曾孫の結婚式で仕舞を舞うのが楽しみだ」と豪語していた父も自然の災害には勝つことも出来ず、大阪の病院で亡くなりました。96才でした。そんな夢を持っていたお陰でしょう、最期まで惚<sup>ほう</sup>けることなく後輩達の歌う早稲田大学校歌に送られて旅立ちました。



## もの 知ってほしいこんな資料(76)

### 第4回IBAF女子ワールドカップ優勝トロフィー

現在当館では、野球女子日本代表が獲得した第4回IBAF女子ワールドカップ（2010年8月、ベネズエラで開催）優勝トロフィーを、日本女子野球協会から借用して女子野球コーナーに展示しています。



第4回IBAF女子ワールドカップ優勝トロフィー

なんと高さ110cmという立派なもので、チームはこれを2つに分解して、手荷物として日本に運んだそうです！ベネズエラという地球の反対側での大会でもあり、報道も少なく、ご存知なかった方も多いかもかもしれませんが、野球女子日本代表はIBAF女子ワールドカップで二連覇を達成し、来年カナダで開催される第5回大会では、三連覇を目指しています。当館でも展示を通じて応援して行きたいと考えています。

女子野球コーナーには、その他にも、戦後存在した女子プロ野球の選手だった高坂（加藤）峰子さんが当時使用されたグラブ、ミットなど、昨年スタートした女子プロ野球の兵庫スイングスマイリーズと京都アストドリームスのユニホームなど、プロ・アマ、軟式・硬式問わず女子野球を紹介しています。そして、女子野球リーグではありませんが女子選手の活躍なので、吉田 えり投手が今年の8月にプロ初勝利を挙げた、アメリカ独立リーグのマウイIKAIKAチームのユニホーム（吉田さんサイン入り）なども展示しています。これからも多くの女子選手の活躍を期待し、さらに充実した女子野球コーナーにしたいと思っています。

IBAF女子ワールドカップは、2004年にカナダのエドモントンで第1回大会が開催され、以来2年ごとに開催されています。第1回は、ほとんど同時期に、2001年から始まった国際女子野球連盟(WIBA)の世界大会が日本（富山県魚津市）で開催され、これにフル代表の出場が先に決まっていたため、高校生日本代表が出場し、アメリカに次ぐ2位となる大活躍でした。第2回も2位でしたが、日本（愛媛県松山市）開催の第3回大会で初優勝。第4回は、大会史上最多の11カ国が参加して、南米のベネズエラで開催されました。第1ラウンドをBグループで戦った日本は4勝で1位通過し、続く第2ラウンドではAグループからの3チームと戦い、オーストラリアには敗れたものの、キューバ、カナダに勝利し準決勝に進出。準決勝でアメリカに勝利し、決勝では第2ラウンドで敗れたオーストラリアに13対5（5回コールド）で圧勝、二連覇を達成しました。大会のMVPには日本の六角 彩子さん（当時18歳）が選ばれました。

第1ラウンドのオランダー香港戦の試合中に、香港選手の足に銃弾が当たるという事故（隣接した軍施設演習からの流れ弾が当たった事故と軍当局が発表）があり、香港チームは帰国。一時は大会続行も危ぶまれたほどの波瀾の中での優勝でした。勝ち取った優勝トロフィーは



左からIKAIKAユニホーム、ワールドカップ優勝トロフィー、高坂氏ミットとグラブ、女子プロ野球ユニホーム

学芸員 新 美和子



## コラム／博覧・博楽 (40)



### 『体育・スポーツ書解題』から30年

木下 秀明 (『体育・スポーツ書解題』編著者)

久しぶりに利用中の野球体育博物館図書室からの依頼で、『体育・スポーツ書解題』上梓から30年経ったことに気づいた。手元の本書には調査洩れ図書の書込みと「校正恐るべし」の赤字がチラホラ。作業を終えての感慨は「あとがき」に留めた。あらためての思い出を書かせて貰う。

野口 岩三郎著『体育書解題』の発行日は大学院受験直前の1953年4月25日。予算成立の遅れで大学院開設が遅れたからである。以後、本書には近代日本体育史研究の史料調査で大変お世話になった。

本書には、上野図書館（現在は国立国会図書館分館）にない本が多数掲載されていた。体操スポーツの解説書は、和服の懐や洋服のポケットから出せば運動場や雨天体操場で使える薄い小冊子が多かった。背表紙に分類用のラベルが貼れない。合本して閲覧できるようにしたのは1970年頃である。

これらの稀覯本（編集部注：比較的世間に流布されていることの少ない書物）捜しで知己を得たのが、後に当博物館初代館長となられた広瀬 謙三さんと、スポーツ図書や記事の収集家・田尾 栄一さんである。

運動部中心に展開したスポーツ史研究の手がかりの一つが、多くの学校が出版した学校史である。広瀬さんのお宅は、野球だけでなく、学校史の宝庫であった。現在は当博物館図書室に収蔵されている。

当博物館には1964年東京オリンピック時開催の「日本スポーツ史展」の準備でお世話になり、その後大野 純二館長時代に解題準備で根こそぎ調査させて頂いた。まだ図書室が利用者募集中みたいな頃だった。

大阪の田尾さんには、1955年頃から毎年のように夏休みに、芦屋図書館田尾文庫を含めてお世話になった。後には、見たい史料をお願いしておく、何割かは入手して下さった。集める極意も伺った。

『体育書解題』は、「体育」と「体操」の誤植や調査洩れが多かった。野口さんもお気づきで、私がやり直すことになった。1974年3月に完成した『日本体育大学八十年史』を贈呈すると、野口さんは一ヶ月前に急逝されたと知らされた。

解題の作業では、A5判大のカード代わりの専用紙を準備し、司書資格を持つ筆写の確実な院生を軸に一冊一冊記入して貰った。それを私が現物と照合した。照合済は解題の書名に肩付きの\*で示した。

整理は一度に一項目だけの並べ替えとした。作業回数は増えるが、ミスは少なく、あっても何回目かの作業で気付く。今ならパソコンで楽だろう。が、入力ミスに気付いた時、一から出直せるだろうか。

東京オリンピックを境にスポーツ書ブームが始まった。解題の作業は1965年迄で打ち切った。

一番苦勞した自信作は、「〇〇も見よ」の注記を加えた見開き2ページ分の「分類項目一覧」である。課題をいろいろと想定して、重複掲載を厭わずに、書名が分からなくても探せるように工夫した。

今はOPACで検索する。キーワードを入力すれば万事OKの筈である。しかし、常識的なキーワードではヒットしないものがある。パソコンも人間も一長一短。パラパラとめくれる蔵書目録が懐かしい。

探す苦勞の体験から収蔵先を記載した。自慢の一つである。だが、今ではコンピュータで間に合う。

今年4月から完全にフリーになった。今は『体操の近代日本史』を執筆中。もう「体操」の時代ではないが、1970年発表の『スポーツの近代日本史』との双書を目指している。当館図書室の請求票に「研究」と「趣味」がある。どちらに○するかは、その日の「腹も身の内」ならぬ頭の具合で決めている。



『体育・スポーツ書解題』  
1981年1月24日 不昧堂出版発行 832頁 26cm



## こんにちは図書室です



今回は戦前の日本職業野球連盟が発行していた、「日本職業野球連盟公報」をご紹介します。

日本職業野球連盟（現在のプロ野球）は今から75年前の1936（昭和11）年2月5日に丸の内・日本工業倶楽部で連盟設立総会を開き、創設されました。連盟の広報誌である「日本職業野球連盟公報」は同年4月25日に第1号が発行されました。



右・「日本職業野球連盟公報 第1号」（1936年4月25日発行）  
左・「日本野球連盟ニュース 第14号」（1937年4月25日発行）

創刊号は縦26センチ×横19センチ、全8ページの冊子で1ページ目には“躍進日本のスポーツ界を誇る日本職業野球連盟創設成る”と見出しが出ており、「…職業野球各チームの宿望が、野球の王者米国との間に世界選手権を争いその覇権を獲得せんとする目的である事は論を俟たぬがこの遠大な理想達成の爲めには全日本の職業野球連盟を組織してフェアプレーの精神とスポーツマンシップを保ち強力なチームに発達さす事に在り」とあります。

また、連盟綱領にも、

- 一、我が連盟は野球の眞精神を発揮し以て国民精神の健全なる発達に協力せんことを期す
- 一、我が連盟はフェアプレーの精神を遵守し模範的試合の挙行を期す
- 一、我が連盟は日本野球の健全且つ飛躍的発達を期し以て世界選手権の獲得を期す

とあり、設立当時からフェアプレーの遵守とアメリカとの世界選手権を目標に掲げており、プロ野球草創期の強い意気込みが感じられます。

このほかにも、連盟結成に至るまでの会議の概要、設立総会や創立披露宴の様子、連盟や加盟チームの組織と役員、4月29日から甲子園球場で行われた連盟主催のリーグ戦日程などが掲載されています。

連盟公報は当初、加盟7チームの関係者や新聞社、野球関係者などに送付され、希望者には実費で頒布されていたようです。ファンから紙面充実の要望が連盟に多く寄せられ、第8号から名前を「日本野球連盟ニュース」と変え、第9号からは縦30センチ×横22センチとサイズを大きくし、写真や各試合の詳細、選手の動静などの情報を増やしています。

当館で所蔵する連盟公報は1939（昭和14）年9月25日に発行された第43号までですが、その後雑誌「野球界」12月号（Vol. 29 No. 18）に「日本野球連盟公報・連盟事務局だより」として引き継がれた形になっています。当館で所蔵している「野球界」では1943（昭和18）年11月号の「連盟だより」が最後になります。

図書室ではプロ野球設立当時の連盟の動きを知る上で貴重な資料である「日本職業野球連盟公報」のコピーを製本して公開しています。また、当館ホームページの「図書室」→「デジタルアーカイヴ」から「連盟公報 創刊号」をご覧になれます。どうぞご利用ください。

司書 茅根 拓



## 野球体育博物館 トピックス (2011年8～10月編)

### 埼玉西武ライオンズ

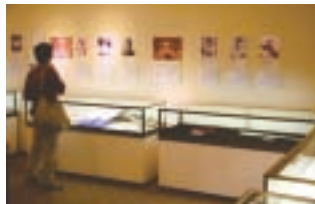
#### 「ライオンズストア フラッグス」ギャラリー

7月9日から9月4日までの「ライオンズクラシック2011」の期間中、「ライオンズストア フラッグス」内のギャラリーでの展示のため、西鉄ライオンズの三原 脩監督、大下 弘選手、稲尾 和久投手のユニホームを交代で貸出しました。また、9月16日から10月18日まで「本塁打王特集」での展示のため、中西 太選手の西鉄ユニホーム、土井 正博選手の太平洋クラブユニホームを貸出しました。



### 遊就館 特別展「スポーツと靖国神社」3/18～10/23

靖国神社遊就館の特別展「スポーツと靖国神社」に、鬼頭 数雄選手使用バット、福士 勇投手使用グラブ(以上は会期前半展示)、景浦 将選手1937年秋季首位打者表彰バット、1940年満州リーグ記念品(以上は会期後半展示)や写真など、戦没された野球選手に関する資料計20点を貸出しました。



### 北海道日本ハムファイターズ

#### 「ファイターズ歴史ミュージアム」

札幌ドームで10月8日から16日まで、「ファイナルゲームス」として開催された球団イベントの展示企画に、新庄剛志選手使用バットなど6点を貸出しました。



### 東北歴史博物館

#### 特別展「いつも元気な子どもたち！」9/23～12/11

昨年度に続き、東北歴史博物館(宮城県多賀城市)からのご依頼で、特別展「いつも元気な子どもたち！」に、東北楽天の星野 仙一監督着用2008年北京五輪日本代表ユニホームや野村 克也名誉監督の現役時代のバット、田中 将大投手使用スパイクなど計5点を貸出中です。



## 博物館からのお知らせ

### ▶ 理事・評議員

〔就任〕

- ・理事 桃井 恒和氏 (読売巨人軍代表取締役オーナー・社長)
- ・監事 久保 博氏 (読売新聞東京本社取締役事業局長)
- ・評議員 高田 浩一郎氏 (福岡ソフトバンクホークス取締役執行役員)
- 原沢 敦氏 (読売巨人軍常務取締役球団副代表兼連盟担当)

〔退任〕

- ・理事 滝鼻 卓雄氏
- ・監事 神田 俊甫氏
- ・評議員 村上 尚之氏 清武 英利氏

### ▶ 野球殿堂入り記者発表

平成24年の野球殿堂入り記者発表は、平成24年1月中旬を予定しています。詳細が決まり次第、当館ホームページでお知らせします。

### ▶ 販売中!

次の商品を、博物館の受付で販売しております。ご来館の記念にぜひお買い求め下さい。

#### 《NPB統一球オーセンティックボール》

(シリアルナンバー入りNPB承認シール付き) 2,500円(税込)

※郵送希望の方は、「公認球希望」と明記の上、代金(公認球代+梱包送料)を現金書留で当博物館までご送付下さい。

公認球：1個 2,500円  
 梱包送料：1個 250円、2～3個 400円、  
 4個以上 送料無料

送付先：〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61  
 財団法人野球体育博物館 公認球係

### ▶ 訃報

1999年に野球殿堂入りされた吉國 一郎氏が9月2日に逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### ● 博物館のご案内

場 所 東京ドーム21ゲート右

開館時間 3月1日～9月30日 AM10時～PM6時  
 10月1日～2月末日 AM10時～PM5時  
 (入館は閉館の30分前まで)

入館料 大 人 500円(300円) } ( )は  
 小・中学生 200円(150円) } 20名以上の団体  
 65歳以上 300円

休館日 月曜日(祝日、プロ野球開催日、春・夏休み中の月曜日は開館)  
 年末年始(12月29日～1月1日)

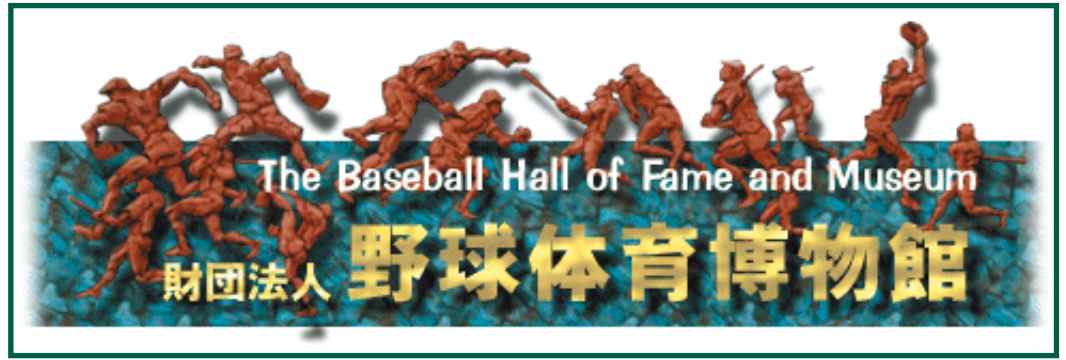
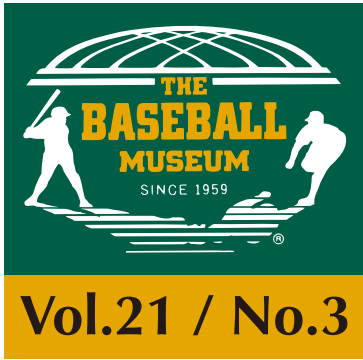
### 《11月・12月・1月の休館日》

11月 7日・14日・21日・28日  
 12月 5日・12日・19日・26日・29日～31日  
 1月 1日・16日・23日・30日

● 編集後記 この号が出るころは、プロ野球はクライマックス・シリーズのファースト・ステージ、社会人は都市対抗の話題で盛り上がっているところです。野球界はまだまだ熱い日が続きます。

### Newsletter Vol.21 / No.3

2011年10月25日発行  
 編集・発行 財団法人 野球体育博物館  
 〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61  
 Tel 03(3811)3600 Fax 03(3811)5369  
<http://www.baseball-museum.or.jp/>  
 定価 100円



リレー随筆(46)

「やってるだらうなア」に込められた思い

競技者表彰委員 加藤 俊一郎 (サンケイスポーツ)

なう、が流行語になったのは昨年だった。インターネット上のソーシャル・ネットワーク・サービス「ツイッター」の用語である。「なう」はnow、で「今〇〇している」の意味。さらに「だん」(done、〇〇を終えた)という用語もある。「野球体育博物館なう(今博物館にいます)」、「見学だん(見学が終わりました)」などと表現する。1投稿140字以内の制限ルールを補うため、端的に現在と完了を表現する略語である。

目まぐるしい社会の変化の中で生きている私たちは、しばしば「なう」と「だん」だけで生活していることに気づかされる。人は経験から未来への足がかりをつかむ。だが「なう」と「だん」には自らの行動だけで生活や仕事を消化し完結しているような印象を受ける。東日本大震災の衝撃でさえ、現在の当事者でない者にはもう「だん」で消化されつつあるのを感じる。終わったばかりの今しかないのなら、人は学ばない。「だん」で完結させないためにも、歴史と経験とを結びつける余地はないだろうか。

幸いなことに野球を取材していると、自分の経験だけでなく、歴史の中に多くの示唆や教訓を見ることができる。

ことし「最後の30勝投手」皆川 陸雄さんが野球殿堂入りを決めた。南海で同学年バッテリーを組んだ野村 克也氏がサンケイスポーツの評論家を務めている縁もあり、氏が記者発表で祝辞を述べる際に橋渡しをさせていただいた。「左バッターをどう抑えるか、2人で毎晩話し合った。そこで思いついたのが左バッターの内角へ食い込む小さなスライダー。いまでいうカットボールの元祖は皆川なんです」と涙を浮かべながら紹介していた。皆川さんと野村氏にかぎらず、毎年の野球殿堂入り決定では、こうしたエピソードが語られる瞬間が多くある。私はこんなとき、現在と過去とのつながりを、強く意識する。歴史の積み重ねを知らず、「なう」と「だん」で自己完結しがちな現代の野球選手も、もっと現在と過去がつながっていることを意識してほしいと願う。

今年3月から10月まで、靖国神社では「スポーツと靖国神社」という特別展が開催され、この展示には、野球体育博物館も多くの収蔵品を展示協力していた。今年は太平洋戦争開戦70年にあたるが、多くのスポーツ選手も戦争で命を落とし、野球選手も例外ではなかった。

ビルマ(ミャンマー)で戦死した巨人草創期の名捕手、吉原 正喜さんが戦地から送った絵はがきが、野球体育博物館の協力で公開されていた。ビルマの宿営地で過ごす七夕、ドラム缶風呂に浸かる自身の絵が描かれている。なんと柔和な表情。頭上の笹飾りには「撃チテシ止マン」など勇ましい標語の短冊がつるされている。その横に「負けるな」「スタチャン」「エイチャン」などの書き込みがある。おそらく巨人でバッテリーを組んだ沢村 栄治、ピクトル・スタルヒンの愛称だろう、チームへの思いの深さが単語の端々ににじむ。

そして、行間を埋めるように「やってるだらうなア」と綴られている。その言葉に込められているのは、自分と同様に戦地へ向かった球友、祖国でまだボールを追っている球友、それぞれの人生を誰もが必死に生きて奮闘しているはずだ、そうあってほしいと信じ願ったのだろう。わずか14センチ×10センチ、小さく狭い軍事郵便に、なんとという明るさ、深い愛情を書き込んだことだろうか。

吉原さんのプロ野球人生はわずか4年間、1942年に入隊し、44年10月に25歳の若さで戦死した。現在の12球団の正捕手では西武・銀仁朗が24歳。また巨人での背番号「27」は森 昌彦以降、近年でも伊東 勤、古田 敦也、谷繁 元信ら捕手定番の番号となったと知ることができる。私たちはけっして、なう、だん、を伝えるだけではいけない。「やってるだらうなア」に込められた、明るさ、祈り、未来を正しく伝えたい。そう思いを新たにしている。